



JODS

26th Spring Convention

@Vision Center Tamachi

2025.4.13 10:00-17:00



5-D JAPAN
5-D FST 会長
菊地 康司



5-D JAPAN
5-D FST 副会長
片山 明彦

先着順で定員(80名)になり次第締め切らせていただきます。

参加登録はQRコードよりご登録ください。

DR 14000円 DT 12000円

DH・DA 8000円 Resident 8000円

※事前振込(2025.4.4まで)の方は上記より

DR・DT -2000円

その他の方は-1000円とさせていただきます。



[Register Now](#)

ULTRADENT
JAPAN 株式会社

BIOHORIZONS

KAVO

PLANMECA

ZimVie

Nobel Biocare

YOSHIDA

NHOSA
ノーサ

Forest-one

Symfonical
メディカルブランディングカンパニー

Dentsply
Sirona

JMT

medinet,inc.
株式会社 メディネット

THEME 1



BOGR&OSの確立に向けた硬軟組織マネジメント ～RESECTIVE AND REGENERATIVE THERAPY～ 菊地 康司先生

5-D JAPANのコンセンサスの一つであるBOGR&OSは、歯周治療における重要な概念を表現している。歯周組織において、自然な歯肉形態と相似形の歯槽骨形態を獲得することは、単なる形態的な目標ではなく、歯周病の再発防止という機能的な意義を持つものである。このように調和のとれた歯肉と歯槽骨の関係性は、BALANCED OSSEO-GINGIVAL RELATIONSHIP (BOGR) と定義されており、長期的な歯周組織の安定性において極めて重要な役割を果たしている。さらに、獲得したBOGRの長期的な維持には、OCCLUSAL STABILITY (OS)、すなわち咬合の安定性が不可欠であり、この概念は天然歯のみならず、インプラント治療においても同様の重要性を持つものである。

この歯周組織の長期的安定性の要となるBOGR&OSの獲得に向けて、本講演ではRESECTIVE AND REGENERATIVE THERAPYを用いた包括的アプローチについて、多数の臨床症例を供覧しながら解説を行う。特に、硬組織・軟組織の理想的なバランスを確立するための治療戦略と、その具体的な手技について詳説するとともに、治療過程における重要なポイントや直面する課題とその対応策についても言及する。また、長期経過症例の提示を通じて、BOGR&OS獲得後の安定性についても検証を行い、予知性の高い治療を実現するために必要な臨床的考察を深めていく。これらの知見が、参加された皆様の臨床における新たな視点となり、より予知性の高い治療の実現への一助となれば幸いである。

THEME 2



SOFT TISSUE STABILITYから考える歯周組織再生療法 ～再生療法を成功させるには！～ PERIODONTAL REGENERATIVE THERAPY FROM THE PERSPECTIVE OF SOFT TISSUE STABILITY ～FOR REGENERATIVE THERAPY TO BE SUCCESSFUL～ 片山 明彦先生

組織再生において、細胞(CELL)、成長因子(GROWTH FACTOR)、足場 (SCAFFOLD) が必要とされ、再生の主体となる細胞に対して成長因子としてはFGF-2製剤などが担うが、骨補填材などは足場の代用としての位置付けである。この足場 (SCAFFOLD)があることにより血餅を安定させ組織を再生に導く。しかし、足場(SCAFFOLD)があったとしても、それらを取り巻く最外層にある軟組織が治癒しないと再生療法の失敗となり得る。

そのため、軟組織治癒が再生療法の成功の鍵の一つではないかと推測される。このことについては、軟組織治癒に対する外科的手技、技術面と再生療法に結合組織移植の併用の2つが重要であると推考する。手技、技術面については創面の一次閉鎖（治癒）の獲得のため、様々なフラップデザインが考案され、CORTELLINらが発表した歯間乳頭保存術（PAPILLA PRESERVATION TECHNIQUE：MIST、M-MIST）が代表的である。その後可及的に乳頭保存のために、乳頭に切開を加えない術式（EPPT、NIPSA）が考案された。また、骨欠損形態によってはそれぞれのフラップデザインの組み合わせもある。次に再生療法に結合組織移植の併用についてである。演者らは再生療法の失敗から歯肉の角化歯肉幅(KTW)と歯肉の厚み(GT)に着目し「再生療法における軟組織の難易度分類」について発表し、再生療法における結合組織移植の必要性を提唱した。再生療法時に角化歯肉幅が少なく、歯肉が薄いPHENO-TYPEの場合に術後、歯肉の裂開を認め失敗に陥るケースを経験し、可能であればそのようなケースも成功に導けないかと考えた。そのような場合にPHENO-TYPEの改善のため結合組織移植を併用すると成功率が上がることを経験した。このことは根面被覆の概念からヒントを得た。この事象を明らかにするためにIN VIVOにおけるビーグル犬を用いたⅢ度の根分岐部病変において、結合組織移植を用いた再生療法が有効であることが確認できた。さらに、臨床において骨欠損があるうえ歯肉退縮も併発している場合、その部位に再生療法を行うときに歯肉（軟組織）と骨（硬組織）を同時に再生する、SUPRA-CRESTAL REGENERATION（支持組織の再生に加えて失われた軟組織：歯肉退縮・歯間乳頭などの再生）が可能となってきた。これらのことは結合組織が大きな役割を担っていると考えられる。

今回これらのことを踏まえて発表させて頂き、皆様とともにディスカッションできればと思う。

TIME SCHEDULE

10:00～10:05	代表挨拶	※コンベンション終了後、講師を交えて懇親会を行います。参加希望の方は登録フォームまたはJODSメンバーにお声掛けください。 ※質疑応答のお時間も設けております。
10:05～12:45	菊地康司先生講演	
12:45～12:50	協賛業者挨拶	
12:50～13:30	ランチョンセミナー（NobelBiocare/ZimVie）	
13:35～14:15	会員発表（正東脩平・池下正博）	
14:20～17:00	片山明彦先生講演	